

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部



令和八年七月度 入賞句一覧

投句数 四百二十六句

特選

星野 勝 選

炎天下スマツシュ決まる土ぼこり

大垣市

陸田 峻生（小五）

季語は「炎天下」。ぎらぎらと焼け付くような真夏の空の下で、作者はテニスの試合に出場、あるいは観戦していたのでしよう。撒いた水もあつという間に乾き、ステップを踏むたびに、そしてボールがコートに落ちるたびに土ぼこりが舞う景が浮かんできます。滴る汗、白熱するラリー、ついにスマツシュが決まり舞い上がる土ぼこり。高々と拳を突き上げる姿。一瞬をとらえながらもドラマが見

水ようかんつるんとのどを通つてく

大垣市

さとう はるか（小三）

「水ようかん」は夏の季語。みずみずしくて夏にぴったりの和菓子です。中七にある「つるんと」という言葉に、水ようかんのさわやかさやみずみずしさが見事に表現されています。さらに水ようかんを食べたことのある人なら、だれもが「のどを通つてく」という表現には納得するでしょう。食べたことのない人も、きつと想像できるに違いありません。題材の特徴をうまくとらえた句です。

夏休みラスボスキたぞ感想文

不破郡垂井町

かわせ りこ（小六）

夏休みも折り返しを過ぎた頃でしょうか。作者は計画的に宿題を進め、残りばかりと苦手な読書感想文だけ。この句のおもしろみは、読者に「ラスボス」つて何だろうと疑問を持たせ、最後にその正体を明かしているところです。作者にとつての「ラスボス」とは、最強で手ごわい読書感想文だったのでしょうか。果たして作者は読書感想文との戦いに勝利することができたのでしょうか。

秀逸

ころもがえ小さい服とおわかれだ

大垣市

安田 美緒（小六）

夏の川大きなこいがなみをきる

大垣市

陸 家俊（小六）

草いきれただいま僕も成長期

大垣市

市川 椋一（中二）

道徳で手をあげドキリあせがでる

大垣市

大橋 梓乃（小四）

委員会まどをあげれば夏の風

大垣市

安田 美月（小六）

入選

夏の海貝がら光るたからもの

大垣市

小林 聖奈（小六）

葉桜の下でばしようがひと休み

大垣市

日比 菜月（小六）

雨が止む梅雨の匂いが香る風

大垣市

日比 雅俊（小六）

夏の雲雨にぬれてる芭蕉像

大垣市

上濱 快斗（小六）

青空に一気にのんだソーダ水

大垣市

中村 朱里（小五）

かきごおりけずったおとがいいかんじ

大垣市

鬼頭 新（小三）

朝早くあさがおの海すずめ鳴く

大垣市

富田 陸翔（小三）

夏の風私のなみだかわかして

大垣市

浅野 華希（中二）

熱帯夜宿題のおににおそわれる

不破郡垂井町

桐山 葵（小六）

水鏡青空うつす田植えかな

不破郡垂井町

吉田 到真（小六）

選者吟

右翼手の見上ぐる頭上夏終る

まさる



小中学生の部